

第4章 地域コミュニティの活性化に向けて

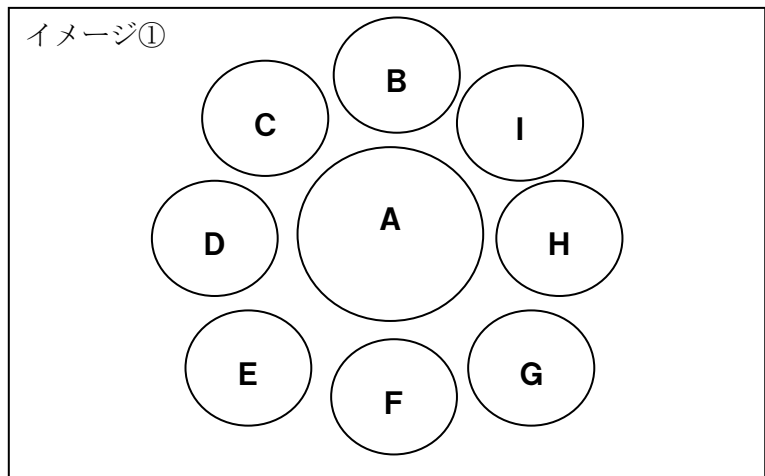
ここでは、第2章のコミュニティ活動事例の分析を踏まえて、今後の川崎市のコミュニティのイメージや、地域の課題解決や活性化に向けて必要な要素等について考察していきます。

第1節 川崎市の都市型コミュニティのイメージ

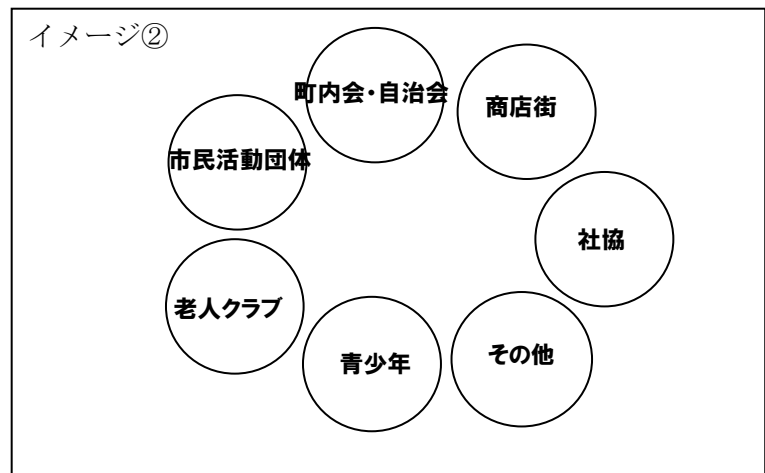
●多様な活動・主体・ネットワーク

川崎市の都市型コミュニティをどのようにイメージするかについては、まずその前提として、地域によって実際の活動は多様であること、そこで活動する人々（主体）も多様であること、また多様な主体を結びつけるネットワークも多様であることなどを踏まえておく必要があると考えます。とはいえ、多様であるというだけでは、どのようにイメージしてよいかわからないこととなりますので、あえて単純化して、いくつかのイメージを作ってみました。

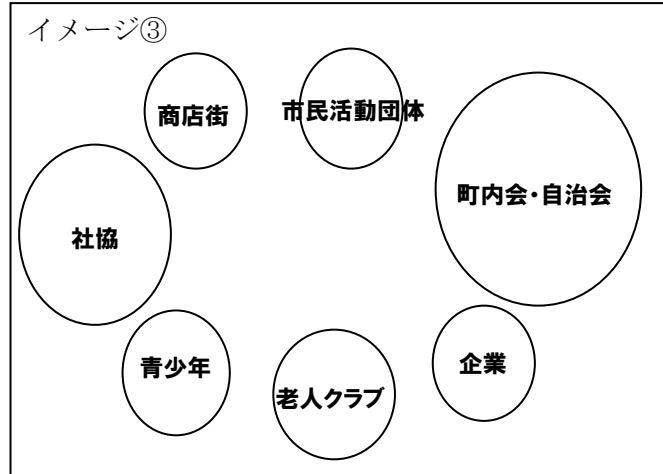
イメージ①は、中心となる団体Aがあり、その周辺にその活動を担い支えるいくつかの団体があり、全体としてコミュニティの活動を担っているというイメージです。



イメージ②は、町内会・自治会、市民活動団体、老人クラブ、青少年団体、社協（社会福祉協議会）、商店街などの団体が、対等な立場で連携する具体的なイメージを表しています。

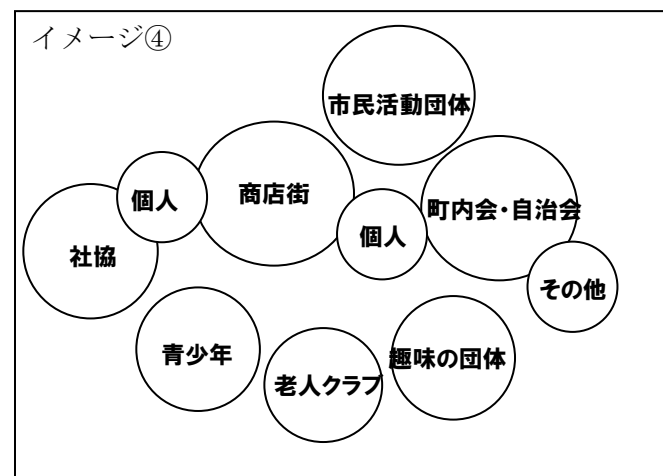


イメージ③は、課題やテーマによって市民活動団体、町内会・自治会、社協などの主要な活動を中心にして商店街、青少年団体、老人クラブ、企業などが連携して活動を展開するイメージです。これらの円の大きさは、活動に際しての主体となる比率や重要性を表していますので、団体によって異なります。

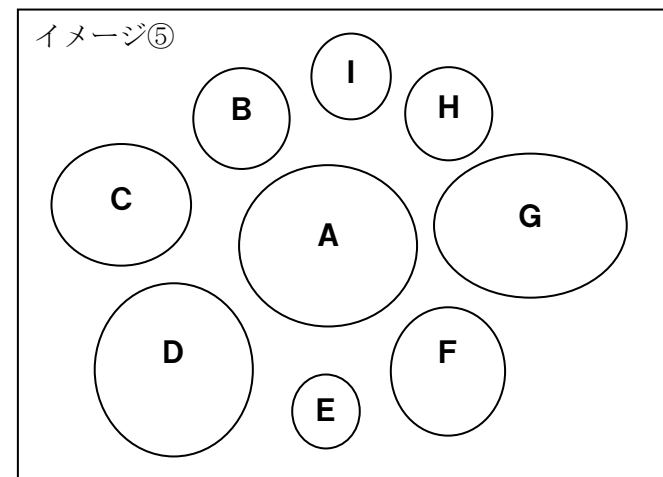


イメージ④は、イメージ③に個人や趣味の団体が入ったイメージです。個人であっても、地域への熱意や経験が豊富であれば、団体に負けない役割を担うことができるでしょう。

なお、この個人や趣味の団体には活動しているすべての人々が含まれます。



最後のイメージ⑤は、①から④のイメージをまとめたもので、団体Aを中心にして、いくつかの団体、グループ、個人などが連携して、コミュニティにおける活動を展開しているというイメージ図です。団体Aが町内会・自治会の場合もあれば、市民活動団体の場合もあり、商店街の場合もあります。



川崎市のコミュニティ活動の事例を第2章で紹介していますが、このイメージ⑤のように、多様な団体が多様なネットワークを形成しながら、多様な活動を行っていることがわかります。コミュニティのイメージを図示すると、このイメージ⑤がこうした多様な姿を示す図であることがわかります。

第2節 コミュニティ力^{りょく}について

● コミュニティ力^{りょく}の強化

コミュニティ力とは、コミュニティが持っている力を意味しています。第2章第2節(2)「連携」が創出するコミュニティ力のところでも述べましたが、1つの団体や1人の個人だけでは限られたことしかできません。ところが、多様な主体が「連携」することによって、人と人との絆が強まり、限りない力を発揮する可能性が高まります。本報告書で紹介している事例は、そうした「連携」が実現され、新しいコミュニティ力が発揮されている事例だと言えます。

では、このようなコミュニティ力を強化するためには、どうすればよいのでしょうか。その回答は、第2章第2節(2)で述べた要素(P31表)を強化することです。すなわち、「人の絆」(地域構成員間の信頼とつながり)、「問題の共有と解決」(地域にある問題の発見、共有、問題の解決)、「公平で民主的な地域社会」(コミュニティの民主的なルールと規範)、という3つの要素を強化することに他なりません。

このことは、後述する地域コミュニティの活性化に向けての検討課題、すなわち、(1)区域について、(2)場について、(3)人材について、(4)資金について、(5)連携・情報について、の課題を一つひとつ着実に解決していくことが、コミュニティ力の強化につながると考えています。

「人の絆」については、会ったときにはお互いに挨拶するなど基本的な人間関係を基礎として、井戸端での世間話や「おしゃべり会」、地域の祭りなどで顔の見える関係を継続的に維持し、そして同じ町内に住む住民同士としての利害の共有が意識できる人間関係を形成することが、人の絆を強化していくと思われまます。適度な距離感・緊張感は必要かもしれませんが、離れすぎた関係や顔の見えない関係では、人の絆と言える人間関係はできないように思えます。

「問題の共有と解決」については、例えば地域で「孤独死」があったとして、それを地域の問題でもあると考えるかどうか、それについて野川西団地自治会のような見守り活動ができるかどうか、という問題です。それは個人の問題だ、家族の問題だ、と考えるならば、地域の問題にはなりません。実は、ここには、プライバシーに踏み込むという難しい問題が潜んでいます。プライバシーを尊重しつつ、「孤独死」を防ぐという現代社会の難しい問題を解く必要があります。

問題が共有されれば、実際の行動に移りますが、順番に役割をこなせばよいという単純な輪番制では、うまく機能しないでしょう。ボランティア精神とか公共精神と言われる行動する人の気持ちが重要だと思います。その意味では、一人ひとりの意識が重要です。できる限り多くの人々と問題を共有し、強制ではなく自発的な行為として、活動に加わってもらえる仕組みが必要です。多くの人々が参加したくなる、参加を続けたいと思うような仕組みが必要だと思います。

「公平で民主的な地域社会」については、「人の絆」と同様な問題があります。すなわち、リーダーが引っ張るという側面と、皆で民主的に決めるという側面が同時に満たされなければならないという問題です。極端な言い方ですが、強力なリーダーが長の座についてボス支配を継続するという傾向と、皆がバラバラに拡散して無政府状態になってしまう傾向という2つの極端な傾向が地域社会に認められる場合もあります。どちらも望ましくないと考えられますが、民主的なリーダーシップという現代社会の難しい問題を解く必要があります。

こうした3つの要素が高められれば、コミュニティカともいえる地域の市民の力がよりよく発揮されると考えます。

● コミュニティカ^{りょく}の継続

最後に、ひとつ追加するとすれば、「コミュニティカ^{りょく}の継続」を指摘することができます。すなわち、コミュニティカ^{りょく}を継続するための工夫が必要です。熱しやすく冷めやすい人では継続しません。最初の熱をいつまでも適度な温度で持続できる人が必要です。

地域には長期間にわたって活動を続けている人々がたくさんいます。そうした人には、地域の問題を自分達で解決しようという熱意があるのだと感じます。このような熱意がなければ、継続はしないでしょう。

ところが、こうした熱意を自然に持っている人は実は少数です。したがって、できる限り多くの人々にこのような熱意が広がることが重要です。活動している人と接した時に、ふとそんな熱意を感じる時があります。そこから、熱意の輪が広がっていくのではないかと思います。そんな人が地域にたくさん出てくることが、コミュニティカ^{りょく}を強化し、継続する力を育んでいくと言えるのではないのでしょうか。